



世界、日本の危機への 対応の1年

2024年度もご支援をいただきありがとうございました。海外では2025年3月28日に発生したミャンマー大地震、国内も2024年1月に発生した能登半島地震など日本・世界では未曾有の災害に見舞われています。

災害が発生すると平時には埋もれていた問題や課題が顕在化します。在留外国人、障がい者、コミュニティの強弱による物資等の支援の差など課題は山積みです。その中で私たちは連携を通じた人道支援、災害支援を展開しております。

他に海外において、トンガで本格的な防災教育事業も開始しています。スタッフも派遣し、東洋大学と連携した事業を行いました。2025年度は、交流も含めた事業を展開していくための準備を進めています。

国内において、災害に備えた多様な団体と協力関係を構築すべく、佐賀災害支援プラットフォームと連携して研修を行いました。また、人口減少に悩む地域において、在留外国人が地域の構成員として活躍できるよう新規事業を開始しました。

目次

3 2024年度トピック	18 2024年度 活動計算書・貸借対照表・監査報告
4 2024年度 事業概要	19 中期方針報告
5 スタッフ一覧	20 私たちについて
6 事業紹介	21 ご支援について

NEWS 3 topics

2024年度は、緊急支援事業や防災の研修事業を国内外で行ってきました。また、在留外国人が地域での役割をもって活動できる事業など、これまでの会のノウハウの詰まった活動を展開しています。



1 ミャンマー 災害緊急支援・大地震支援

2025年3月28日にミャンマー中部を震源とするマグニチュード7.7の大地震が発生しました。2021年以降、情勢が不安定であり、貧困率の悪化など市民は厳しい生活を強いられる中の今回の地震。2024年に発生した洪水被害に追い打ちをかけるように自然災害が猛威を振るいました。支援を必要とする方々のために現地提携団体とも連携し、支援物資の提供などを実施しました。復興までの道のりは長いものになるかと思いますが、現地に寄り添い、共に復興に取り組んで参ります。



2 セーフティネットワーク 構築事業始動

現在、佐賀県には、1万人以上の在留外国人が生活しています。在留外国人が日本・佐賀で暮らす上で、必要な準備の1つとして挙げられるのが、災害時の対策です。本セーフティネットワーク構築事業は、災害時に、在留外国人が支援から取り残されないようにするために、2024年9月より休眠預金を活用し、事業を開始しました。今まで当法人が実施してきた地域づくりや災害支援の経験の蓄積を活かしながら、活動を進めて参ります。



3 能登半島地震支援

2024年1月に発生した能登半島での地震に対して、佐賀災害支援プラットフォームと連携しての活動を行いました。発災後、すぐに支援物資を現地団体を通して送りました。多くの支援団体が能登に入っていますが、地理的な問題や現地側の支援の仕組みの課題などもあり、復興までにはまだまだ時間がかかりそうです。当会も能登での支援の経験を佐賀や活動地域でどう活かすかも課題になっています。

「地球市民」と
わたしたちの活動

他の人の幸せを自分の幸せとして感じられる人を「地球市民」と定義づけ、地域・日本・世界で活動する人材を育成しています。多くの感動を集め、多くの仲間と分かち合う。与えあい、ともに学ぶ。私たちは地球市民の輪を広げ、新しい価値を生み出していくための活動をしています。

わたしたちのミッション

世界平和と地域社会の持続可能な向上・発展を実現するため、地球市民が活躍する場を作ること

活動領域

今、つらい人に寄り添う

人災、天災が日本・世界各地で発生し、被災した方々はつらい状況にいます。今、支援を必要としている人に寄り添い、迅速で適切な支援を、他団体と連携し活動しています。

地域を元気にする

国内外問わず、地域の方が主体性を発揮し、いきいきとした地域社会を創造するサポートを行っています。地域の課題を解決することで持続可能な地域づくりを行います。

世界とつながる機会をつくる

様々な形で世界とつながる機会を提供し「地球市民」として行動できる人を増やします。地域や世界の課題を自分事として考えられる地球市民を育成しています。

学ぶ機会をつくる

日本・アジアの脆弱な立場に置かれた人に様々なスキルの習得や教育へアクセスできる機会を提供しています。地球市民として、地域の発展のため行動できる人材を育成します。

2024年度の活動

活動領域

事業内容



今、つらい人に寄り添う

ミャンマー大地震支援	P 6
トンガ・災害後の復興支援	P 7
ウクライナ避難民受け入れ支援	P 8

世界とつながる
機会をつくる

SDGs 推進プログラム	P 9
ミャンマー農業・コーヒー事業	P 10



地域を元気にする

在日外国人支援・セーフティネット	P 11
子どもの居場所づくり事業	P 12
ミャンマー環境保全・植林事業	P 13
ミャンマー環境保全・ゴミゼロ事業	P 14
ミャンマー電化事業	P 15
災害支援研修事業	P 16



学ぶ機会をつくる

地球市民奨学金	P 17
---------	------

日本 | 本部事務局（佐賀）

佐賀県佐賀市にある本部事務局。国内事業をはじめ海外事業のコーディネート業務などを行う。

岩永 清邦
事務局長藤瀬 伸恵
事務局次長 /
海外事業担当濱田 裕子
総務統括大熊 奨
海外事業担当牧野 沙也香
海外事業担当碓氷 名
国内事業担当武富 有香
国内 / 奨学金
事業担当

ミャンマー | ミャンマー事務所

ミャンマーで実施するプロジェクトの管理。

鈴木 亜香里
プロジェクト
マネージャー高橋 岬
プロジェクト
アドミニストレーター

サイ・トゥン・エー

クン・ソー・
ゾウ・マウンサライ・ハン・ミン・
トゥ・ルエ

コ・マンリン

マ・モー・
モー・トゥエマ・ミョー・
ティエ・ダム・シュエ・
リー・ウィン

日本 | 名古屋デスク

ミャンマー事業のコーディネート業務に加え、近隣へのファンドレイジングや講演活動を展開。

柴田 京子
ミャンマー国代表 / プロジェクトマネージャー

ミャンマー | ナウンカ村落開発センター

ミャンマー・シャン州ナウンカにあり、循環型農業研修を実施。

クン・ソー・アウン
センター長

クン・シュエ・トー



クン・ティエ・レー

ミャンマー | タンボジ農業畜産研修センター

ミャンマー・シャン州ニャウンシュエにあり、高校生に教育・農業・学ぶ機会を提供。

マ・ワー・ワー・ライン
センター長

ウ・ウイン・シュエ



ドー・キン・サン・ウー



マ・ウェイ・ウェイ・アウン

ミャンマー | ライレンピー持続可能開発センター

ミャンマー・チン州ライレンピーにあり、循環型農業やアグロフォレストリー農法の研修を実施。

ウ・ザベタン
センター長

ウ・ソー・リン



マ・グンティ



マ・トゥライ・ゼ



ウ・ビエラ



ウ・ビエロ



今、つらい人に寄り添う | ミャンマー大地震支援

ミャンマーで起きた大規模な洪水、地震緊急支援を実施



ミャンマー—サガイン地域、マンダレー地域、シャン州など

topics

1 被災し、今困っている人々に緊急支援物資をお届け

2 団体間の連携の大切さを実感

2024年9月、猛烈な台風11号は熱帯低気圧に変わった後、ミャンマーに記録的な大雨をもたらし、洪水の被害は広範囲に及びました。そして2025年3月、中部でM7.7の大地震が発生しました。震源地のザガイン近郊をはじめ、当会の事業地シャン州でも大きな被害が出ました。ミャンマーの人々は2021年の政変以降、厳しい生活を強いられています。それに追い打ちをかけるような自然災害。貧困率が5割に及ぶ中で、今も絶望や不安と戦いながら人々の生活が続いています。私たちは2003年の活動開始後、多くの現地団体と信頼関係を築いてきました。そのネットワークを活かし、被災者の方々に緊急支援物資をお届けしました。

地震被災者の声

Tさん

去年の9月に洪水で被害を受け、やっと落ち着いて家で生活ができと思っていた矢先の地震でした。また何もなかったところから始めなければならないのかと、呆然としました。アクセスが難しいところに住む人々はまだ支援物資を受け取れていない人々もたくさんいます。私たちが困っている時に、日本から助けてくれて本当に感謝しています。

実施概要

受益対象者 | 3,044世帯、約15,000人
支 援 者 | 地震緊急支援への寄付者の皆様122人
(2025/3/31時点)
従 事 者 | 20人

ご支援・応援・連携いただいた企業や団体など

天照株式会社
株式会社Sagan Navi
JA佐賀中央会有志
一般社団法人環不知火プランニング



今、つらい人に寄り添う | トンガ・災害後の復興支援

トンガで防災教育事業を実施



トンガ—トンガタプ島、ハアパイ諸島

topics

1 トンガハイスクールで防災教育事業を開始！
2025年度も継続実施予定

2 東洋大学との協働研究でレジリエントなコミュニティづくりを目指す

奨学金に続き、2つ目の事業となるトンガハイスクールにおける防災教育を「佐賀県協力隊を育てる会」との協働で実施しました。7月には防災教育ワークショップ、11月には避難訓練を現地で行いました。保護者への引き渡し訓練の必要性も確認し、2025年度も継続して実施予定です。本事業には共同研究を行う東洋大学・松丸教授も専門家として参加。またレジリエントなコミュニティを目指し、地域開発の専門家・岡本教授も現地調査を行いました。またスタッフが1カ月現地NGOでの研修を行い、ニーズ調査と関係構築が進みました。トンガと佐賀市の交流も開始し、2025年度は学びと友好を深める年になりそうです。

参加者の声

Anaさん
Tonga High School校長



防災教育は非常に有益で有意義でした。世界で最も低く平坦な島に住む我々にとって、この研修は生徒や教職員にとって大きな自信と防災意識の向上に繋がりました。今年新たに約500人の新入生と30人の教員を迎えました。この防災教育が継続され皆で学びを共有することで、次に津波の危険に直面した際により備えた行動ができると確信しています。

実施概要

受益対象者 | 約1,300人
支 援 者 | さとおやさん9人
従 事 者 | 4人

ご支援・応援・連携いただいた企業や団体など

株式会社成田空港ビジネス
株式会社クリアオペレーション
東洋大学



今、つらい人に寄り添う | ウクライナ避難民受け入れ支援

これからはウクライナ避難民も
佐賀に暮らす地域の一人として



世界とつながる機会をつくる | SDGs 推進プログラム

今年も佐賀でSDGs学習と国際交流！
SDGs Academy SAGA 2024



日本
—
佐賀県

topics

1 ウクライナ避難民が自立し
地域に根ざすための地盤作りに
注力した一年

2 月1回のネットワーク会議
も継続実施中

2024年度は、ウクライナ避難民の新規受け入れはなく、現在佐賀に暮らす避難民の自立に向けた支援を考える一年となりました。2023年度から始めた避難民を講師とする「ウクライナ理解講座」シリーズを継続しながら、他団体や企業・士業の方々と連携し、災害勉強会や起業相談会の開催など、今後、避難民が佐賀や日本国内で生活、就労していくことを見据えた企画を展開しました。年度末には、支援者の方々とウクライナ避難民、ネットワークメンバーを交えた交流会を実施し、これまでのご支援に感謝を伝えるとともに、これから進学や帰国により佐賀を離れる避難民の方々にエールを送る好機となりました。

支援者の声

法村孝樹さん
朝日テクノ株式会社
代表取締役



地球市民の会との関わりは、SDGsを推進していただいたことからの始まりです。地球市民の会の様々な活動を知り、共感した事で世界中の人々が笑顔になれるよう、微力ながら協力したいと考えた次第です。主な支援は、ウクライナ避難民がリフレッシュできるようなイベント、トンガの子どもたちへの奨学金の寄付などになります。

実施概要

受益対象者 | 21人
支援者 | 46人
従事者 | 4人

ご支援・応援・連携いただいた企業や団体など

SAGA Ukeire Network〜ウクライナひまわりプロジェクト〜 | 公益財団法人日本財団
公益財団法人佐賀未来創造基金 | 朝日テクノ株式会社
認定NPO法人難民支援協会 (JAR)
NPO法人日本ウクライナ友好協会KRAIANY
学校法人佐賀龍谷学園 | 一般社団法人佐賀災害支援プラットフォーム (SPF) | HOUSE・KOMORA
佐賀県行政書士会 | 佐賀友の会

日本
—
佐賀県

topics

1 東アジアの共通SDGsを
日中韓の学生で共有し、
国を超えた交友関係を構築

2 佐賀県内のホストファミリー
との交流促進！

創設当初から行ってきた事業の1つである国際交流事業。2024年度は、昨年に続き対面開催！研修最初のホームステイでは、県内5家庭に受け入れていただき、様々な観光地を巡り充実した交流となったようです。研修は「ジェンダー平等を実現しよう」をテーマとし、講師の方々からSDGsや性の多様性、男女役割分業の変遷、政治参加への大切さなどについて教わり、ディスカッションも多く取り入れられました。また、学びの集大成として発表会も行い、その他にも、佐賀市内で文化体験をするなど、参加者学生同士の交流も促進するプログラムとなりました。

参加者の声

高元永さん
韓国学生参加者



SDGs Academyを通じて様々な経験をすることができました。講義を通じて、韓中日間のジェンダー問題は似たような傾向があることが分かり、グループ発表では更に詳しく知ることができました。ホストファミリーと中国と日本の友達との思い出は忘れられません。SDGsへの関心がさらに深まりましたし、来年機会があれば参加したいです。

実施概要

受益対象者 | 32人
支援者 | ふるさと納税127人 (のべ数)
従事者 | 9人+ボランティア2人

ご支援・応援・連携いただいた企業や団体など

社団法人釜山韓日文化交流協会 | 上海海洋大学外国語学院日語系 | 上海商学院商务外国语学院日語系
Mimosequal | 公益財団法人佐賀県女性と生涯学習財団
国立大学法人佐賀大学教育学部 | 佐賀LGBTs支援団体
SOiGIEs | yorokobi企画 | 特定非営利活動法人難民を助ける会 | ロッキーマ株式会社ロイヤルトラベル
佐賀インターナショナル・ゲストハウスHAGAKURE



世界とつながる機会をつくる | ミャンマー農業・コーヒー事業

日本からミャンマーコーヒーを応援する



地域を元気にする | 在日外国人支援・セーフティネット

佐賀の在留外国人を守る
セーフティネットを基盤にした地域づくりミャンマー
日本一各地
— チン州、ライレンピー町

topics

1 コーヒーアンバサダー
70名突破!2 今年の収穫1000kgに。
各地のイベントやオンラインで
コーヒー販売中!

ライレンピーコーヒー事業は7年目を迎えました。現地の農家を応援するコーヒーアンバサダーという支援制度を設けています。現在72名のアンバサダーさんがいます。「母親のいる介護施設でミャンマーの方にお世話になっているので、自分も何かしたい」など、それぞれ想いをもちアンバサダーになってくださっています。また、毎月違うロースターに焙煎を依頼しており、「生豆が綺麗」とお褒めの言葉をいただくことも増えました。日本に到着してからライレンピーコーヒーは様々な方に支えられていることを実感しました。

支援者の声

中根緑さん



チン州のコーヒー栽培を応援する活動に参加し、毎月送っていただく美味しいコーヒーも飲むことができ、自分のささやかな支援が現地の自立に繋がっていることが実感できます。毎月届くコーヒー豆を通し、コーヒー栽培の状況を知り、現地の方々、日本の焙煎してくださる方々とのつながりも感じられ、持続的な支援の形としてとても素敵だと思います。

実施概要

受益対象者 | 約1,400人
支 援 者 | 72人+ロースター12人
従 事 者 | 4人

ご支援・応援・連携いただいた企業や団体など

チェアコーヒー | 喫茶ニューボビー | ヨイマメ珈琲
ZELKOVA COFFEE | アトリエKamin
就労継続支援B型事業所GENIUS (ジーニウス)
珈琲焙煎体験豆当番 | cafe MARUGO
FELLOW COFFE | OK COFFEE | マッハコーヒー
Blackwell Coffee | 就労継続支援B型ミラクル5

日本
— 佐賀県

topics

1 2024年9月、休眠預金
活用事業によるセーフティ
ネット構築事業開始

2 準備会の継続実施

本事業は、災害時に在留外国人が支援から取り残されないようにするために開始しました。佐賀で暮らす外国人住民の中には、支援を受けるだけでなく、地域住民として役割を持ち、困った方々へ支援ができる方も多く考えています。そのような方々とチームを組み、災害時の準備をしておきたいと考えています。今年度は、佐賀県内の様々な方々を対象に本事業を知ってもらいながら、地域住民同士の顔の見える関係の構築をするための交流会や災害・防災の知識を増やすための研修会など様々な活動を実施していきます。活動を通して、災害時のみならず平時にも支え合える仕組みを構築していきます。

支援者の声

矢富明徳さん
公益財団法人佐賀県国際
交流協会(SPIRA) 課長



「災害時に外国人は支援される側だけではなく、支援する側にもなる」近年、全国的にも研修会等がよく耳にするようになりましたが、そのための取組はまだ多いとは言えません。そのような中、佐賀で実際に動き出したこの取組はとても素晴らしいと思っています。これから事業が進み、活躍する外国人の姿を楽しみにしています!

実施概要

受益対象者 | 未定人
従 事 者 | 4人

ご支援・応援・連携いただいた企業や団体など

特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム
一般財団法人日本民間公益活動連携機構 (JANPIA)
公益財団法人佐賀県国際交流協会 (SPIRA)
佐賀県多文化共生さが推進課 | Famigo株式会社
福岡県産業労働部国際経済課国際交流・多文化共生
グループ | 公益財団法人福岡県国際交流協会
岡山県総社市 | 岡山県岡山市
KUMAMOTO KURASU (くまもとくらす)



地域を元気にする | こどもの居場所づくり事業

こどもの居場所を広く周知し、
参画者の拡大を目指す



日本
佐賀県佐賀市

topics

1 佐賀市内の既存居場所、
新規立ち上げ希望4団体の
相談対応・伴走支援を実施

2 参画者を拡充するための
ボランティア用公式ラインの
運用開始。登録者90名突破

佐賀市の委託8年目を迎え、引き続き既存居場所の運営
フォロー及び新規立ち上げ希望者4件の相談に対応。
居場所について広く周知し、参画者を増やすため、佐賀市
や他団体と3者共催で「佐賀市こどもの居場所サミット
2025」を実施し、130名の方に参加いただきました。
また、ボランティア用公式ラインを立ち上げ、ボランティア
希望者が自由に登録し、気軽に居場所へアクセスできる
環境を整えました。その他、子どもたちの活躍の場づくり
を目的としたイベント『どんぐりキッズ市場』の開催や、
郵便局とのフードドライブ連携強化、および企業と
居場所とのコラボ活動におけるコーディネートも実施
しました。

受益者の声

(左から) 郡山桂子さん、
原清子さん、湯川洋久さん
フリースペースひつじ



昨年地球市民の会に電話したのがきっかけで、今も
継続的に立ち上げを支援いただいています。当初は
スタッフ数名と場所、居場所を作りたいという思い
があるだけでした。行政や社協、地域の方等と繋い
でいただき、協力者との繋がり大切さを感じてい
ます。今後「ひつじ」を好きになってくれる子が増える
ことを願っています。

実施概要

受益対象者 | 子どもの居場所団体30件
支援者 | 団体・個人65件
従事者 | 2人

ご支援・応援・連携いただいた企業や団体など

佐賀市 | 佐賀市社会福祉協議会 | 佐賀女子短期大学
日本郵便株式会社 佐賀北部会 | 株式会社ミズマチ
第一生命 佐賀支社 佐賀東オフィス | 佐賀大学
SAGA COLLECTIVE | 株式会社ブレスホーム
大東建託株式会社 佐賀支店 | 一般社団法人さが・
こども未来応援プロジェクト実行委員会 | 認定特定
非営利活動法人全国こども食堂支援センター・むすびえ
循環子ども居場所づくり実行委員会
佐賀県『食』でつながるネットワーク協議会



地域を元気にする | ミャンマー環境保全・植林事業

地域と環境に寄り添う、
持続可能な農業プロジェクト



ミャンマー
シャン州、リンケー地域

topics

1 試行錯誤を乗り越え、
3年の事業が無事完了！

2 環境と地域を守り続ける、
これからの挑戦！

コーヒーを中心としたアグロフォレストリーの普及を
目指した3年間の事業が無事に完了しました。この事業
は、地域情勢により事業地の変更を余儀なくされ、新た
な場所で一から再構築する必要があるなど、多くの調整
が求められる困難な状況でしたが、現地スタッフや関係
者の協力と理解のもと、試行錯誤を重ねながら最後まで
走り抜けることができました。研修や植林、畜産の導入を
通じて地域の人々の意識も高まり、持続可能な農業への
関心が深まりました。今後も、地域資源を活かした持続
可能な農業を推進し、環境と人々の暮らしを守るととも
に、さらなる地域の発展に貢献する活動を継続してい
きます。

担当者の声

サイ・タウン・エー
タウンジー事務所スタッフ



この事業のおかげで、切られていく森林を守ることが
できました。農業と畜産を組み合わせ、畜産の
収入でアグロフォレストリーのモデル農園に給水
施設を整備しました。今回の活動がモデルとなり、
地域の人々も真似をして植林やアグロフォレスト
リーを始めるようになりました。その様子を見て、
嬉しく思います。ご支援ありがとうございます。

実施概要

受益対象者 | 約1,400人
従事者 | 5人

ご支援・応援・連携いただいた企業や団体など

独立行政法人 環境再生保全機構



地域を元気にする | ミャンマー環境保全・ゴミゼロ事業

未来の環境を守るために、
今できることをひとつずつ



ミャンマー
— シャン州、リンゲータウンシップ
シーサイントウンシップ

topics

1 アグロフォレストリー農法で、
環境を守りながら収入向上を
目指す

2 若者主導のゴミプロジェクト。
分別で資源化し、ゴミを出さ
ないゴミゼロ村を増やす

情勢が悪化するミャンマーにおいて、環境保全は二の次と思われるかもしれませんが、確かにこの地で生活する人々がいて、未来を生きる子どもたちがいます。次世代に少しでも豊かな環境を残すために、環境保全活動に取り組んでいます。アグロフォレストリー農法として、森の中にコーヒーを植えることで環境を守りながら収入獲得の手段を増やしました。収穫はまだ先ですが、地域で「コーヒーを植えた森は絶対に木を切らない」という約束を作りました。また、若者が中心となって村に「ゴミ委員会」を作り、ゴミの収集、分別指導、ゴミ拾いキャンペーンなどを実施しました。地域のモデルとなるゴミゼロ村が徐々に広がりを見せています。

実施概要

受益対象者 | 約1,000人
従事者 | 5人

ご支援・応援・連携いただいた企業や団体など

公益財団法人 国土緑化推進機構
公益財団法人 リソナアジアオセアニア財団

裨益者の声

ナン・セインティさん



私たちの村と学校にゴミ箱、ゴミばさみ、手袋を支援してもらいました。研修を受け、プラスチックには多くの悪影響があることや、ゴミが病気を引き起こす可能性、川に捨ててはいけないこと等を学びました。環境や動物にもよくないですし、川にゴミを捨てると、最終的には人もゴミを食べることと同じになります。私は研修を受け、ゴミを捨てるのをやめました。



地域を元気にする | ミャンマー電化事業

電化を通じて豊かな生活と未来を作る



ミャンマー
— シャン州、ピンラウンタウンシップ
シーサイントウンシップ、
ナーカイ地域

topics

1 生活向上! 再エネで
変わるミャンマーの明日

2 無電化村で電気が使える
ようになり、大きく広がった
可能性

ミャンマーの山岳地域で水力や太陽光などの再生可能エネルギーを活用し、地域住民の生活向上を実現しました。電力供給により、電気による給水や調理の効率化、農産物加工の生産性向上が達成されました。地域の資源を有効に活用できるよう地域産業促進の研修や、環境保全研修も実施しました。また、施設を作るだけではなく大切に、そして長く使っていくために、住民主導の維持管理体制を整備しました。停電が非常に多いミャンマーにおいて、再生エネルギーを活用した小規模発電事業は、益々需要が高まっています。

実施概要

受益対象者 | 3,600人
従事者 | 7人

ご支援・応援・連携いただいた企業や団体など

外務省

裨益者の声

クン・アウン・ジーさん
ピントン小水力発電・
飲料水供給プロジェクトの委員



私たちの村は辺鄙な場所にあり、生活は困難でした。以前はソーラーパネルの薄暗い照明を使っていましたが、今は電気が通り、どの家も明るく照らされています。村の皆が、夜にテレビを見たり音楽を聴いたりして疲れを癒せるようになりました。子どもたちも明るい中で勉強できています。是非私たちの村にお越しください。



地域を元気にする | 災害支援研修事業

災害の「危機」を協働を通して解決していく



日本
佐賀県

topics

1 行政、社会福祉協議会、企業、CSOが連携構築に向けた1年

2 能登半島地震から学ぶ佐賀での地震への備え

近年、頻発する災害に対して、県内行政、社会福祉協議会、企業、CSOがそれぞれできる部分を担い、連携を通じた支援を行った行くため研修会を実施しました。発災すると、物資不足、避難所運営、ペット問題、家財搬出などのボランティア不足など様々な問題、課題が複雑に絡み合っています。各団体にはそれぞれの強みがあり、その強みを活かした時に被災者の課題に応える活動になるかと思っています。この研修会は一般社団法人佐賀災害支援プラットフォームが中核となり、運営部分を当会が担いました。また、2024年1月に発生した能登半島地震への支援活動も県内の団体を募り実施しています。

連携団体の声

小松美佳さん
社会福祉法人佐賀県社会福祉協議会 まちづくり課長



地球市民の会の皆様とは、災害に備えた繋がりづくりや被災者支援の体制構築に向けた研修会等でご一緒しています。災害時には、私たち社会福祉協議会だけではなく、行政・CSO・企業等との連携・協働による支援活動の展開が期待されています。その実現に向け、今後も「顔の見える関係づくり」をともに推進できれば幸いです。

実施概要

受益対象者 | 306人
従事者 | 4人

ご支援・応援・連携いただいた企業や団体など

一般社団法人佐賀災害支援プラットフォーム
佐賀県
佐賀県社会福祉協議会



学ぶ機会をつくる | 地球市民奨学金

奨学金支援を通じて世界の子どもたちとつながりを



ミャンマー
スリランカ
ゴール市

topics

1 タンボジ生、日本語能力試験N5合格!

2 さとごオンライン交流会開催。これからもつながりを大切に

昨年度は情勢の都合により送ることが出来なかったシヤン奨学金も、2024年度は65名に支給できました。タンボジセンター（ミャンマー・シヤン州）では、現在15名の高校生が寮で暮らしながら、生活しています。3月に開催したさとごさんとのオンライン交流会では、はにかんだ笑顔で質問に答えていました。日本語の勉強も頑張っており、日本語能力試験N5に3名が合格しました。「将来は日本に行きたい」と夢を語っています。また、トンガやスリランカでは、さとごさんが支援をしている学生に会いに現地へ行かれ、心の繋がりを深めています。

担当者の声

マ・モー・モー・トゥエ



多くの困難が襲いかかる現在のミャンマーにおいて、子どもたちが教育を受けることは容易なことではありません。教育を受けるため、たくさんの困難を乗り越えなければなりません。教育は子どもたちの将来を大きく左右し、優れたリーダーが生まれるための重要な役割を果たします。奨学金のさとごさんたちを心から尊敬しています。

実施概要

受益対象者 | ミャンマー高校生80人
スリランカ高校生40人
支援者 | さとご会員 144人（団体・個人）
三井雅史さん
従事者 | 12人

2024年度 活動計算書・貸借対照表・監査報告書

活動計算書

(単位:円|税込)

自 2024年4月1日 至 2025年3月31日

経常収益	
【受取会費】	2,775,000
【受取寄付金】	
正会員受取会費	1,295,051
学生会員受取会費	6,291,957
賛助寄附受取会費	4,941,634
団体賛助寄附受取会費	5,428,476
購読会員受取会費	323,000
【受取会費】合計	18,280,118
【受取寄付金】	
受取本部寄付金	10,854,170
受取内寄付金	115,995,074
受取奨学金寄付金	126,849,244
受取ミャンマー寄付金	
受取トンガ寄付金	8,837,176
【受取寄付金】合計	5,480,558
【受取助成金等】	
受取内助成金	232,070
受取ミャンマー助成金	1,080,000
受取トンガ助成金	15,629,804
受取トンガ助成金	138,131
【受取助成金】合計	163,672,297
【事業収益】	
内委託金収益	10,523,709
トンガ委託金収益	165,000
国内事業収益	1,233,008
ミャンマー事業収益	1,529,297
トンガ事業収益	30,000
【事業収益】合計	13,481,014
【その他収益】	
受取利息	35,296
為替差益	7,240
雑収益	145,206
【その他収益】合計	187,742
経常収益 合計	356,935,497

経常費用	
【事業費】	
人件費	40,625,620
その他経費	216,559,961
【事業費】合計	257,185,581
【管理費】	
人件費	11,257,502
その他経費	4,161,063
【管理費】合計	15,418,565
経常費用 計	272,604,146
当期経常増減額	84,331,351
【経常外収益】	
税引前当期正味財産増減額	81,007,507
【経常外費用】	
税引前当期正味財産増減額	44,352,089
法人税、住民税及び事業税	120,986,769
当期正味財産増減額	81,000
前期繰越正味財産額	120,905,769
次期繰越正味財産額	211,624,830
	332,530,599

貸借対照表

(単位:円|税込) 2025年3月31日現在

資産の部			負債・正味財産の部		
科目	金額		科目	金額	
【流動資産】			【流動負債】		
(現金・預金)			未払金	10,321,980	2,185,950
現金	173,284	251,171	前受金	1,000,000	1,224,000
普通預金	169,984,855	250,642,565	預り金	1,804,559	7,818,119
現金・預金計	170,158,139	250,893,736	未払消費税等	0	567,000
(売上債権)			流動負債計	13,126,539	11,795,069
未収金	7,610,280	9,971,139	負債合計	13,126,539	11,795,069
売上債権計	7,610,280	9,971,139			
商品	117,918	64,590	正味財産の部		
貯蔵品	116,000	80,000	前期繰越正味財産額	180,927,197	211,624,830
棚卸資産計	233,918	144,590	当期正味財産増減額	30,697,633	120,905,769
(その他流動資産)			正味財産計	211,624,830	332,530,599
立替金	11,741	0	正味財産の部 合計	211,624,830	332,530,599
預け金	0	0			
前払費用	15,500	14,850			
ミャンマー未使用資金	44,352,089	81,007,507			
流動資産合計	222,381,667	342,031,822			
【固定資産】					
(投資その他の資産)					
什器備品	369,702	293,846			
出資金	2,000,000	2,000,000			
固定資産合計	2,369,702	2,293,846			
資産合計	224,751,369	344,325,668	負債・正味財産合計	224,751,369	344,325,668

財産目録

(単位:円|税込) 2025年3月31日現在

科目	金額	科目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
1. 流動資産		1. 流動負債	
現金預金	250,893,736	未払金	2,185,950
手許現金	251,171	前受金	1,224,000
普通預金	250,642,565	預り金	7,818,119
未収金	9,971,139		567,000
棚卸資産	64,590		
貯蔵品	80,000		
立替金	0		
前払費用	14,850		
預け金	0		
ミャンマー未使用資金	81,007,507		
流動資産合計	342,031,822	流動負債合計	11,795,069
2. 固定資産			
什器備品	293,846	負債合計	11,795,069
出資金	2,000,000	正味財産	332,530,599
固定資産合計	2,293,846	負債及び正味財産合計	344,325,668
資産合計	344,325,668		



NPO 法人国際協力 NGO センターより
2015 年に ASC2012 の認証を受けました。

監査報告書	
2025 年 3 月 31 日	
特定非営利活動法人地球市民の会	
理事長 山口 弘 殿	
監事 工井 敏弘 殿	
監事 佐藤 孝 殿	
私は、特定非営利活動法人第 18 条の規定に基づき、2024 年度（2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで）の特定非営利活動法人地球市民の会の業務及び財産の状況について監査を実施いたしました。	
監査の方法は、重要な会議の議事録その他の重要資料を閲覧するほか理事から事業の報告を聴取し、また財産の状況については監査書類の提供、照会、質問等の合理的な保証を得るための手続を行いました。	
監査の結果、法人の業務の執行に関しては法令及び定款に違反する重大な事実はなく、2024 年度の特定非営利活動法人地球市民の会の財産の状況は適正なもの認められます。	
以上	

2022▶2024

多くの地球市民が活躍する社会に向けて

3年間の活動実績

地球市民の会のミッションに基づき、2021年度に3ヵ年方針を策定しました。この方針のもと、多くの方々と連携しながら活動を行ってきました。3年間の実績と、これからの歩みに向けた2024年度の取り組みを報告します。

社会 / 地域の課題や困難にチャレンジし
活躍の場を広げ、「地球市民」を増やしていく



困難を機会ととらえ、地球市民を増やす

地球市民の会と関わった人数*

2024年度	8,588人
2022▶2024 目標	40,000人
2022▶2024 実績	80,500人

2024年度 | 取り組み

- ・子どもの居場所事業
- ・地球市民共生事業
- ・国際交流事業
- ・ミャンマー事業
- ・奨学金事業

* 受益者、支援者含む

日本中・世界中に点在する「地球市民」と
繋がり、地球市民運動がさらに活性化・発展する



地球市民が連繋する場をつくる

地球市民と繋がる場・機会の増加数

2024年度	16ヶ所
2022▶2024 目標	100ヶ所
2022▶2024 実績	104ヶ所

2024年度 | 取り組み

- ・海外事業オンライン報告会
- ・さとおや交流会 ・どんぐりキッズ市場
- ・佐賀市こどもの居場所エリアネットワーク会
- ・佐賀市こどもの居場所サミット2025
- ・ウクライナ交流イベント ・国際フェスタ
- ・愛知県内フェアトレードやSDGs イベント

理念・目標を共有し、スタッフや理事がやりがい
をもって「地球市民」として活動できる組織へ



地球市民が活躍しやすい組織を作る

制度設計や現場の声で始めた事業数

2024年度	4件
2022▶2024 目標	組織全体の強化
2022▶2024 実績	24件

2024年度 | 取り組み

- ・TPA ミャンマースタッフからの提案事業

地球市民チャレサポプロジェクト あなたのアイデアを地球市民の会と一緒に実現！

わたしたちは地球市民を増やし、活躍の場を作りながら、より多くの事業を生み出す「TPA ホールディングス」を目指しています。そこで多くの方々と連携して活動できる「地球市民 チャレサポプロジェクト」を策定しています。地球市民が増えていくために、当会がもつノウハウなどを提供し、あなたの挑戦を全力で応援します。

